

癒された『能：リア王』

Noh: King Lear as a Healing Play

中川 菜月

NAKAGAWA Natsuki

Abstract: “Noh” was only an old, difficult theatre for me until I saw and heard *Noh: King Lear* by Kuniyoshi UEDA. I was completely charmed from the very beginning and healed spiritually after seventy minutes by the beautiful scenes of the new Noh play.

Keywords: *Noh: King Lear*, Kuniyoshi UEDA. 『能：リア王』、上田邦義

衣擦れの音が、あれほど神聖に聞こえたのは初めて。耳に響く音が少ない分、その音が研ぎ澄まされて聞こえる空間。味わったことのない心地よさに溢れた空間。

全編通して、不思議な気持ちに包まれた70分でした。前に聞いたお話の本質が、少しだけ掴めた気がします。「無」の空間こそが、詩の朗読より、雰囲気のある舞台装置より、何よりも叙情的だと実感できた気がします。

この世の苦しみ、絶望から解放されるために選んだ死。動かなくなったリア王。その存在は、まさに「無」でした。「生」の象徴であるのでしょうか、着物を一枚脱ぎ捨てて新しい姿になるリア王。人形のように動かず、能面の表情は硬いけれど、そこにはとてつもなく大きな悲しみがありました。音もない、動きもない。ただひたすらに、心ばかりが溢れる空間。久しぶりに心が動かされました。静かに流す涙ほど美しいものはないと思います。

そして微かに響いてくる衣擦れの音に振り返ると、そこには救いがありました。あとで「太陽」と称された方がありましたが、その通りだったと思います。「無表情」の中に「微笑み」を、「静かな語り」の中に「情」を観ました。そして何よりただ純粋に綺麗でした。釘付けになりました。最後の美しい「救い」の舞に、シェイクスピア四大悲劇中最大の悲劇と謳われる『リア王』のハッピーエンドを観ました。

癒された。最後はそれに尽きます。

私にとって「能」は、難解で、頭とイヤホンガイドを使わないと観られないものでした。

しかし、こんな風に純粹に、単純に、面白い、綺麗と思って観られる「能」なら、これからももっと触れてみたいです。本当に、本当に素晴らしかった。拝見できて良かった。またこういう機会に恵まれたら、幸せと思います。